

技術・家庭科（技術分野）における思考力・判断力・表現力

「生きる力」という理念の共有の下、基礎的、基本的な知識・技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等の育成が、新しい学習指導要領での目標の一つとしてあげられている。

本学校園での幼小中一貫教育における研究テーマも、この思考力・判断力・表現力等の育成を取り上げ、そのために、児童・生徒の「学び合い」をどのようにしていくかを研究してきた。そして「学び合い」を深めるために、児童・生徒同士のどのようなかかわり合いや、教師の意図的なはたらきかけが大切なのかが、今回の研究会のメインテーマである。

技術・家庭科では、実践的・体験的な学習活動を通して生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を身につけさせることによって、実際の生活の場で学習したことが生きてはたらく力となることをねらいとしている。特に、将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくためには、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして課題を解決することができる能力、すなわち問題解決能力が必要とされている。

この問題解決能力とは、課題を解決するに至るまでに段階的にかかわる能力をすべて含んだものであり、課題に対して様々な角度から考える思考力、その思考力を総合して解決を図る判断力、判断した結果を的確に創造的に示すことのできる表現力等があげられる。つまり、問題解決能力のなかに、これらの思考力・判断力・表現力等は含まれており、問題解決的な学習を工夫することで、これらの力を育成することができると考えてよい。

技術・家庭科では、学び合いの中での思考力・判断力・表現力の育成のポイントとして、次の3つをあげて実践研究してきた。

- ①確かな知識と技術を身につけるために、題材を段階的に設定する。
- ②思考力・判断力・表現力を用いて生活課題を解決する場を設定する。
- ③互いに学び合う場を設定する。

特に、実践的・体験的な学習を通して学んでいく技術・家庭科では、計画、実践、評価、改善（PD SAサイクル）などの一連の学習過程を組み立て、題材を中心にして指導にあたることに特徴がある。生徒同士がお互いに学び合う場面をその中でうまく設定し、生徒同士の創意工夫や、考えなどを発表し合い、学び合いながら深めていけるように工夫することが大切である。

また今後、課題解決の際、生徒が個々の課題に直面した時の判断のよりどころとなる価値観を育成することが必要とされる。技術分野では、新学習指導要領のなかで、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てることが新たに求められている。その際、地球環境に配慮し再生産可能な循環型社会を築くためにも、一方を追求すれば他方を犠牲にせざるを得ないという二律背反の状態・関係（トレードオフ）の場面において、具体的な選択肢の長所と短所をすべて考慮したうえで価値判断や決定を行うことが重要となる。

さて、これまで技術分野での研究実践を振り返って、その指導の工夫と成果を次に紹介する。今年の7月に行われた附属中学校の平成22年度公開授業研究会では、「ものづくりガイダンス～「技術」ってどんな教科～」の題材名で、生徒が使用する箸の製作を体験しながら、技術という教科の特性をガイダンスとして知るとともに、ものづくりを通した問題解決力の中核となる思考力・判断力・表現力を、学び合うなかでどのように育むのかについて実践し、協議した。特にガイダンスの中で、小学校の図画工作につながる箸づくりを製作題材とした体感的なものづくりを行わせ、その技能修得の中に課題解決のプロセスを取り入れ、単純な技能修得にとどまらず試行錯誤しながら学ぶことで、思考力・判断力・表現力を磨く新たな試みができたと成果としてあげられる。さらに、個から集団への課題解決の共有化を、箸づくりでのかんな削りの場面を通して、個から集団へ共有したものを、再度ペアに返して追試を行うなど工夫することで、互いの学びをいっそう深めることができた。

（共同研究者：島根大学教育学部附属教育支援センター 長澤 郁夫）